

日本のエネルギー政治の挫折と後退、そして再生へ

The Track of Energy Democracy in Japan

千葉商科大学 特別客員准教授

田中 信一郎

Shinichiro Tanaka,
visiting associate professor of Chiba University of Commerce, former Senior Research Officer of National Policy Unit

一般社団法人地域政策デザインオフィス代表理事
千葉商科大学特別客員准教授
酪農学園大学特任准教授
博士（政治学）

国会議員政策担当秘書、明治大学政治経済学部専任助手、横浜市地球温暖化対策事業本部政策調査役、内閣府行政刷新会議事務局上席政策調査員、内閣官房国家戦略室上席政策調査員、長野県企画振興部総合政策課・環境部環境エネルギー課企画幹、自然エネルギー財団特任研究員等を経て、現在に至る。

国（内閣・国会）と県（長野県）、市（横浜市）のすべてで政策企画の経験を持ち、国では行政府と立法府の両方で政策企画に携わった。また、有識者として国や自治体で審議会委員等の経験も有する。

著書

『信州はエネルギーシフトする』『国会質問制度の研究』『国民のためのエネルギー原論』（共著）『再生可能エネルギー開発・運用にかかわる法規と実務ハンドブック』（共著）

戦前 商工省（石油・石炭を所管）、逓信省（電力）

prewar era, Ministry of Commerce and Industry (oil and coal), Ministry of Posts (electricity)

1943年 軍需省の設立（商工省と逓信省の電力部門、企画院の国家総動員部門を統合）
初代大臣：東条英機首相の兼務、次官：岸信介国務大臣（前商工大臣）

1943, Ministry of War Supply (The minister was PM Tojo, the vice minister was MS Kishi.)

戦後に首相
安倍首相の祖父

1945年 軍需省から商工省に名称変更

1945, name change from Ministry of War Supply to Ministry of Commerce and Industry

1949年 商工省から通商産業省に名称変更

1949, name change from Ministry of Commerce and Industry
to Ministry of International Trade and Industry

エネルギー行政の55年体制
(通産省と科技庁の二元体制)

1956年 原子力委員会と科学技術庁の発足

1956, Atomic Energy Commission and Science and Technology Agency

1965年 通産省に総合エネルギー調査会、原子力発電技術顧問会議を設置

1965, Advisory Committee for Energy and Advisory Conference for Nuclear Power Technology of METI

1973年 資源エネルギー庁の設置

1973, Agency for Natural Resources and Energy

エネルギー行政の修正55年体制
(直後に第一次オイルショック)

1974年 電源三法（促進税法、特別会計法、地域整備法）の成立

1974, Electric Power Development Promotion Act

2001年 通産省を経済産業省に、科技庁が文部省と統合して文部科学省に省庁再編
内閣府に原子力委員会、原子力安全委員会、原子力立地会議を設置

2001, reorganization of government ministries, Ministry of Economy, Trade and Industry, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Atomic Energy Commission, Nuclear Safety Commission, Cabinet Conference for Nuclear Power Site Location

2002年 エネルギー政策基本法の成立

2002, Basic Act on Energy Policy

原子力立国体制への移行
(原子力中心のエネルギー政策)

2006年 原子力立国計画の策定

2006, Atomic Energy Nation Plan

2009年 自民党を中心とした政権から民主党を中心とした政権への交代

2009, DPJ Gov.

2011年 福島原発事故

2011, Fukushima Disaster

2030年代までの原発ゼロ実現

2012年 革新的エネルギー・環境戦略の策定と原子力規制委員会・庁の設置

2012, nuclear power phase-out strategy, Secretariat of the Nuclear Regulation Authority

自民党を中心とした政権へ後退（12月）

LDP Gov.

2014年 新しいエネルギー基本計画の策定

2014, revised Basic Plan on Energy Policy

修正原子力立国体制の復活
(原子力+石炭中心)

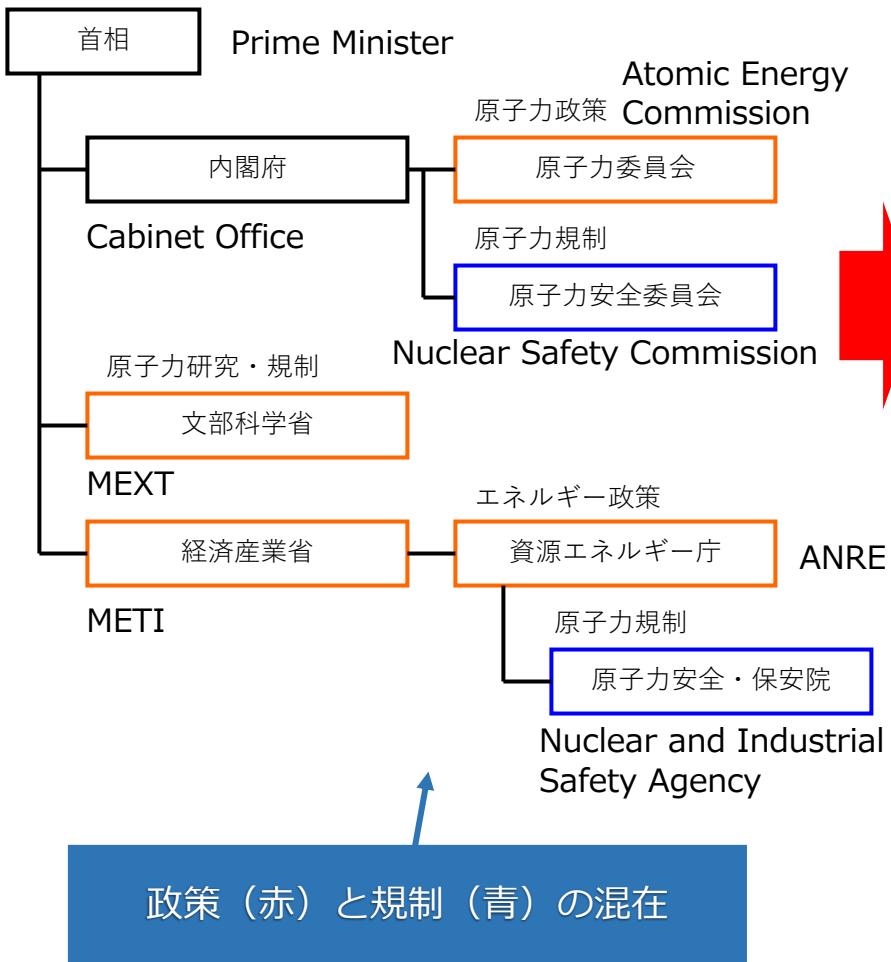
エネルギー行政改革試案

A Draft Proposal of Energy Administrative Reform

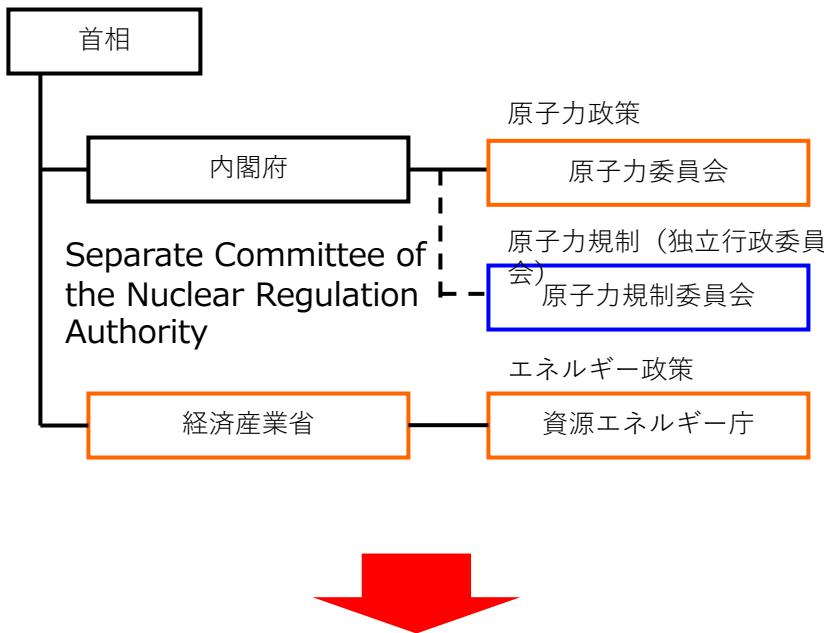
地域政策デザインオフィス

Local Policy Design Office

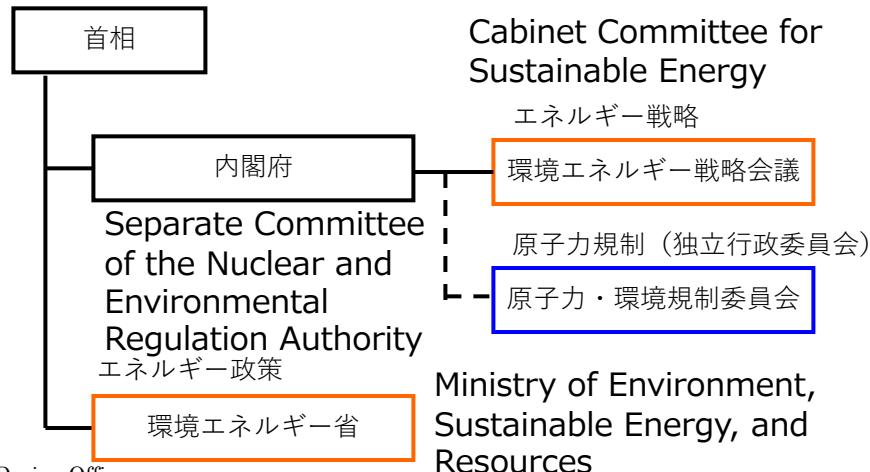
福島原発事故時の原子力政策の体制 Before Fukushima



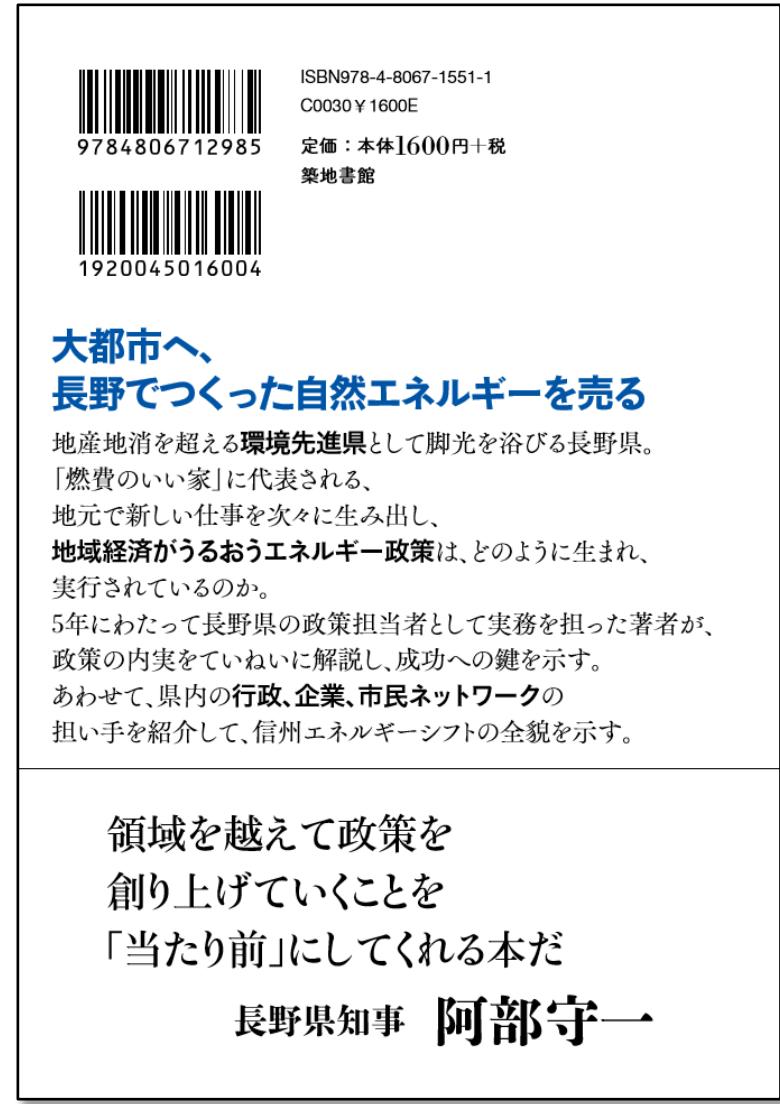
第1段階 1st Step



第2段階 2nd Step



田中信一郎「エネルギー行政をいかに改革するか」植田和弘・梶山恵司編著『国民のためのエネルギー原論』日本経済新聞出版社



長野県での環境エネルギー政策の実践について知りたい方は、本書をどうぞ